



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和元年12月2日

第9号



「考えることの大切さを学びました」

校長 神田 敏之

今年度のダンボール劇団の公演は「アラジンと魔法のランプ」でした。市民図書の方々が何か月もかけて準備をしてくださいました。しかも学年ごとに公演をしていただきました。私は、2回見たのですが、学年によって子どもの感想が異なることに気付きました。

- お姫様の2枚目の服を作ってみたくなりました。かわいいです。
- ドレッシングの入れ物や箱で宮殿が作られていて工夫されていました。
- お城が飛ぶ仕掛けがすごいと思いました。魔人の向きも変わっていました。
- 魔人が出てくる音楽がきれいでした。
- 「考える」ことの大切さを学びました。ふだんは捨ててしまうような物を利用したり、場面に合った曲を選んだり、とても考えられて作っていることが分かりました。
- 感じたところは表現力です。例えば一つの場面でもそこをどうわかりやすく表現するか、工夫を考えて表現していたことがよく伝わりました。
- 今日一番感じたのはアラジンのよいところです。危なっかしいけれど、元気でとりあえずやってみるところや困難なことがあっても勇気を出してあきらめないところがすごくいいと思いました。
- アラジンは姫と必ず結婚したいという強い思い、また努力する姿がとても印象的でした。このシーンで私はあきらめずに努力し続けること、また挑み続けることが大切だと感じました。

多くの子どもが紙人形や背景の作り方等の工夫に目が向いていました。さらに上の学年になると演じている人の思いを感じ取り、さらに自分自身の生き方にもつなげていこうとする気持ちをもつことができます。

2020年の4月から実施される新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」ということがうたわれています。今回のように、公演から感じたことを自分の中に取り込み、考え、生き方につながるような思いをもつということが、「自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力」を育むことにつながると感じました。

12月の懇談会では、次年度に向けて「本校の教育活動のよさ」「どのような資質・能力を子どもたちに付けていきたいか」等を保護者の視点でご意見をいただきたいと考えています。ぜひご意見をお聞かせください。